第３課　すべての人を一つにしてください

【暗唱聖句】

「また、彼らのためだけでなく、彼らの言葉によってわたしを信じる人々のためにも、お願いします。父よ、あなたがわたしの内におられ、わたしがあなたの内にいるように、すべての人を一つにしてください。彼らもわたしたちの内にいるようにしてください。そうすれば、世は、あなたがわたしをお遣わしになったことを、信じるようになります」ヨハネ17：20，21

【今週のテーマ】

【日曜日・御自分のために祈られるイエス】

イエス様は弟子たちに遺言のように最後の長いメッセージを語り、「これらのことを話したのは、あなたがたがわたしによって平和を得るためである。あなたがたには世で苦難がある。しかし、勇気を出しなさい。わたしは既に世に勝っている」と締めくくられた後、ヨハネ17章において3つの祈りを天の父に捧げられました。そのまず祈りはご自分のために、次に弟子たちのために、そして最後にイエス様を信じる者たちのための祈りでした。

ヨハネ17：1～5にかけて、イエス様はご自分のために祈っておられます。その祈りは、「父よ、時が来ました」と言う言葉から始まっています。それはご自分が人類の罪を贖う献げ物となるとき、すなわち十字架にかかって死ぬときが来たということです。このためにイエス様は人としてこの世界にやってこられたのです。このご自分の使命を果たすために、イエス様は神様からの力を祈り求める必要があったのです。イエス様が具体的に祈り求めたのは、「神の栄光」でした。

イエス様は「あなたの子があなたの栄光を現すようになるために、子に栄光を与えてください」（ヨハネ17：1）と祈られました。神様の栄光とは、神様の尊厳や威光、わかりやすく言えば素晴らしさです。それをいま現すために、イエス様ご自分にも栄光を与えてくださいと祈られたのです。ご自分の栄光とはもともと「…世界が造られる前に、わたしがみもとで持っていたあの栄光」（ヨハネ17：5）のことでした。イエス様はご自分がもともと持っておられた栄光を現すことによって、それは父なる神様の栄光ともなるのでした。ところで、実はこれまでもイエス様は父なる神様のご栄光を日々現してこられました。

「わたしは、行うようにとあなたが与えてくださった業を成し遂げて、地上であなたの栄光を現しました」（ヨハネ17：4）

イエス様が行われた癒しや奇跡、語る言葉一つ一つが、父なる神様の御心であり、そのことを通して父なる神様の栄光が現されていたのです。しかし、イエス様の時が来たとき、その栄光は究極のものとなるのでした。十字架の贖いの死により、イエス様は人類の罪を赦し、永遠の命をお与えになることによって、それはイエス様の栄光となり、同時にそれは父なる神様の栄光ともなるのでした。なぜならば、十字架は神様の最大の愛の現れとなるからでした。それゆえイエス様は、「永遠の命とは、唯一のまことの神であられるあなたと、あなたのお遣わしになったイエス・キリストを知ることです」（ヨハネ17：3）と言われたのです。つまり、父なる神様と御子イエス様を、十字架に現わされた愛により真に知るという関係の中で、永遠の命に至るのです。あるいは逆に、私たちが永遠の命に招かれその中に入るとき、父なる神様と御子イエス様を真に知ることとなるとも言えるかもしれません。

【月曜日・弟子たちのために祈られるイエス】

イエス様はご自分のために祈られた後、弟子たちのために特別な祈りを捧げられました。それはまもなく一緒にいられなくなることによって、弟子たちは大きな信仰の危機に直面することになるからでした。イエス様の弟子たちに対する祈りは次の言葉の中に深くこめられています。

「わたしは、もはや世にはいません。彼らは世に残りますが、わたしはみもとに参ります。聖なる父よ、わたしに与えてくださった御名によって彼らを守ってください。わたしたちのように、彼らも一つとなるためです」ヨハネ17：11

イエス様は弟子たちを守ってくださいと祈られました。これまではイエス様が彼らを守ってきました。しかし、イエス様はもう弟子たちと一緒にいることはできないのです。興味深いのは、イエス様にとって弟子たちが守られるとは、迫害から守られるとか、経済が守られるとか、病気から守られるとか、そのようなことではなく、彼らが一つとなるということを意味していました。悪魔の攻撃は弟子たちを仲たがいさせることにあったからです。これは今も同じです。教会の中で分裂が起これば、もはや教会として機能しなくなることでしょう。

　またこの祈りに先立って、イエス様は「彼らのためにお願いします。世のためではなく、わたしに与えてくださった人々のためにお願いします。彼らはあなたのものだからです」（ヨハネ17：9）と祈られました。イエス様はこの世のためには祈られませんでした。この世は父なる神様の御心に反した世界であることをご存じであり、だからこそ、「わたしがお願いするのは、彼らを世から取り去ることではなく、悪い者から守ってくださることです」（ヨハネ17：15）と祈る必要があったのです。

　またイエス様は「真理によって、彼らを聖なる者としてください。あなたの御言葉は真理です」（ヨハネ17：17）とも祈られました。この世に残され生きる者たちは、この悪に染まった世界において、聖なる者として生きる使命があるのです。御言葉という真理によって聖なる者とされます。御言葉に生きることこそ、聖なる者の生き方なのですが、そのためには神様の力が必要なのです。だからイエス様は祈られたのです。

【火曜日・わたしを信じる人々のために】

イエス様は弟子たちのために祈られた後、「わたしを信じる人々」のためにも祈られました。その祈りの中心は彼らが主にあって一つとなることでした。イエス様が父なる神様の内にいて一つであるように、イエス様を信じる人々もイエス様の内にいて一つとなるようにしてくださいと祈られました。

「父よ、あなたがわたしの内におられ、わたしがあなたの内にいるように、すべての人を一つにしてください。彼らもわたしたちの内にいるようにしてください。そうすれば、世は、あなたがわたしをお遣わしになったことを、信じるようになります」ヨハネ17：21

弟子たちが一つとなるように、わたしたちも一つとなることがイエス様の最大の祈りのテーマでした。しかも、その一つとなる方法がイエス様と一つとなることによって実現するのです。これは神秘であり奥義です。しかしイエス様はわたしたちにキリスト者が本物の神の子となる最大の秘訣をその祈りの中で教えてくださったのです。これは重要なポイントです。

　イエス様が教える一致とは、わたしたちがイエス様と一つになることで実現します。そのときわたしたちの心には互いへの愛が湧き上がり一致の土台となります。そしてイエス様と思いが一つとなることによって、わたしたちの思いも一つとなるのです。わたしたちが愛によって一致していくとき、イエス様の栄光が現わされ、わたしたちがイエス様の弟子であることを証していくことになるのです。

【水曜日・クリスチャンの間における一致】

「わたしには、この囲いに入っていないほかの羊もいる。その羊をも導かなければならない。その羊もわたしの声を聞き分ける。こうして、羊は一人の羊飼いに導かれ、一つの群れになる」ヨハネ10：16

神様が望まれるクリスチャンの一致とは、これまでSDAの教会内における一致に重点をおいてきました。では他宗派の教会のクリスチャンとの一致についてはどうなのでしょうか。これまでわたしたちは教会一致運動（エキュメニカル運動）に関しては、慎重な立場をとってきました。この背景にはお互いの教理の違いだけでなく、黙示録に預言されているように教会内部から背教が起こることや、偽クリスチャンたち同志の結合などを警戒してきたからです。他宗派の教会側もSDAを異端扱いし、一線を画す傾向があるので、お互いに一致できる環境にはなかったというのが本当のところかもしれん。

　ではわたしたちSDAはどのように他宗派のクリスチャンと接すれば良いのでしょうか。エレン・G・ホワイトは具体的な事例として当時あった女性クリスチャン禁酒同盟の働きを協力することの大切さを教えています。それによって自分たちの信仰を曲げることにはならないし、禁酒という社会的問題で一致できます。また他教派の人たちに真理について耳にする機会を与えることにもなると語っています。

【木曜日・愛によって共有する一つの愛】

「わたしたちは、神の掟を守るなら、それによって、神を知っていることが分かります」ヨハネ第一2：3

神様を知っている人は神様の掟を守ると聖書は言います。神様を知るために守るのではなく、知っているから守りたいと思うのです。

「「神を知っている」と言いながら、神の掟を守らない者は、偽り者で、その人の内には真理はありません」第一ヨハネ2：4

神様を知っているとは、知識ではなく神様との関係を現わしています。したがって、神様を知ると神様の知識が単に豊かになるのではなく、常に行動が伴うのです。その行動とは愛です。つまり神様を知ることと、愛に生きることと、一致することはすべてつながっているのです。もし一致を求めるなら、まず神様を知ることです。神様を知っていると言えるような関係を神様と結ぶことです。そうすればそれに伴う行動である愛があふれてきます。すると自然にお互いの一致は始まるのです。